

かんもん北九州ファンクラブふるさとUターン企画～9月13日

大好評だった昨年のUターン企画(講演「本能寺の変～427年目の真実」明智憲三郎氏・内田青虹氏)に続き、本年は、東京で人気沸騰の完熟コンビ、柳亭燕路師匠と美作ゆうこ先生の落語・歴史講話のコラボ講演を奇跡的に保存された門司港の料亭「三宜楼(さんきろう)」で行います。

会場は、門司港駅から棧橋通を山手に徒歩10分近くの清瀧に門司海峽を望んでそびえる昭和6年竣工の延床面積1000平方メートルの木造和風三階建、現存する九州最大級の料亭建築三宜楼の2階「百畳間」です。清瀧だけでも10軒以上の料亭が並び、200人以上の芸妓がいた往時は、出光興産創業者の出光佐三氏など政財界の要人・文化人がよく集った高級社交場で、3階には高濱虚子が「風師山梅ありという登らばや」と詠んだという「俳句の間」があります。

この料亭も、昭和30年頃には廃業、平成17年には売却・解体の運命にありましたが、地元有志中心とした三宜楼保存活用協力会の努力で、建物は平成21年に北九州市に寄贈され、現在は、三宜楼運営協議会(会長高橋泰雄氏)が借入・運営しており、今年4月から1階を料亭(料理人:ふく間屋「あたか」安宅秀人氏)として再開しました。関門の新鮮・良質の料理を眺望の良い歴史的和風建造物でリーズナブルな値段で楽しめる門司港レトロの新たな人気スポットになると期待されています。



1. 場所: 三宜楼 門司区清瀧3-6-8 TEL 093-321-2651 右地図参照
2. 日時:9月13日(土)12時から14時半(受付開始11時半)

* 12時～12時15分:三宜楼の歴史・館内の紹介(三宜楼運営協議会副会長)

* 12時15分～13時:歴史講話(美作ゆうこ先生・江戸史研究家)。

「関門海峡を渡った將軍の象」ベトナムから將軍に献上された象は長崎から陸路小倉に至り、門司の大里から船で下関に渡りました。笑うに笑えない象の珍道中の顛末は？

* 13時～13時30分:落語「明烏(あけがらす)」(七代目柳亭燕路師匠、人間国宝柳家小三治の弟子、華やかだった花街の高級料亭「三宜楼」に因み、本当は真面目で下戸だとの噂のある燕路師匠が吉原の廓噺を堅物の若旦那になりきって演じます。

* 13時30分～14時30分:食事と懇談(東京の会員との交流を行います)

2. 会費:4千円(食事・飲物込)。
3. 参加要件:かんもん北九州ファンクラブ会員以外のご友人、ご家族も歓迎です。但し、百畳間と言え舞台を含め正確には80畳の細長い部屋ですので、参加は60人程度に抑えゆつくりと舞台近くで聞いて頂きたいと思っておりますので、ぜひ早めに申込みください。
4. 申込方法:9月3日(水)までに、申込票に必要事項を記入の上、FAXまたはメールにてお申込下さい。弁当形式の食事を手配しますので、申込後キャンセルは3日前までをお願いします。

以上

申込票

9月13日かんもん北九州ファンクラブふるさとUターン企画

宛先: 長崎 新一 企画担当 FAX 03-5491-4690

メール (nagasaki-s@nifty.com 又は kankitafc@gmail.com)

参加申込票

ご氏名(代表)

勤務先: _____
又は出身高校: _____
TEL: _____
Mail: _____ @ _____

ご氏名(ご同伴)

①

②

③

④

⑤

⑥

⑦

⑧

⑨

⑩